

音戸清盛祭

倉橋島では 5 年に 1 度、音戸清盛祭が開催される。源平の乱（1180～1185）で滅亡するまで強大な勢力を誇った平氏の当主、将軍平清盛（1118～1181）を記念して開催されている。清盛は、1165 年に音戸ノ瀬戸を開通させたとされる。

この祭りは 1834 年、死者を祭るお盆の時期（7 月中旬）に初めて開催された。当初は、念仏おどりを中心に、太鼓や踊りを交えて行われていたが、1858 年以降は貴族の行列の再現が中心となった。

旅する大名の行列は、江戸時代（1603～1867）初期に導入された参勤交代に由来している。この制度では、大名は 2 年に 1 度、江戸（現在の東京）に出向くことが義務付けられており、大名は大規模な従者を連れて豪華な旅をした。江戸時代後期になると、貴族の富と影響力が衰退し、行列は陳腐化し、公家は家来が使っていた衣服や物を処分した。同時に、これらの廃棄物は、地方の祭りで行われていた行列を再現して再利用されるようになった。

音戸清盛祭の行列は、500 人以上の役者が 77 組に分かれ、江戸時代の儀典に基づいて編成される。伝統的な衣装に身を包み、歴史的な品々を携え、大名行列の雰囲気の色濃く残している。1979 年に呉市の無形文化財に指定され、全国的に知られている。